



オブチボンドXTR／エヌ・エックス・スリー

レジン、セラミックからメタルまで対応したオールラウンドな接着システム

日常臨床の中でコンポジットレジンなどの直接法による接着修復や、間接法によるインレー、クラウン等の接着修復において、「接着力の強さ」と「接着システムのシンプル化」は非常に重要なファクターである。

より強固な接着力を求めれば、メタルの補綴物内面や口腔内のメタルコアにはメタルプライマーを、セラミックの補綴物や口腔内のファイバーコアにはシラン処理のあるセラミックプライマーが必要となり、プライマー類のボトルは増え、ステップも複雑化していく。

反対にオールインワンタイプのボンディング材や、1ステップタイプのレジンセメントも近年急激に進化しているが、ステップを簡素化すれば、接着力の低下は否めない。

そのような背景の中で、

接着力とステップのシンプルさを兼ね備えた接着システムであるオブチボンドXTR（以下、XTR）とエヌ・エックス・スリー（以下、

NX3）を併用した臨床応用例を提示したい。今回はファイバーコア間接法による支台築造を行った上で、メタルセラミックスブリッジの接着を行った1例である。

まず、支台築造の上で問題となるのが、レジン、ファイバー、歯質間の接着と、光の届かない根管内の接着である。

XTRの歯質に対するプライミング効果はもちろんであるが、アドヒーズ硬化後の被膜強度が高いため、セメントレーション前のファイバーコアに塗布する事で、シラン処理をした際と同程度の接着強度があり、同一ボトルで歯質、レジン、ファイバーとの接着効果を期待できる。

また、NX3と併用する事でデュアルキュア型の硬化反応を起こすため、光の届きにくい根管内でも強い接着力を発揮する。

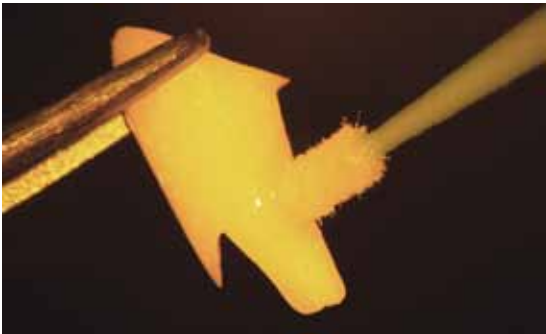
次に、支台築造を行った上に形成される補綴物に対してであるが、XTRのアドヒーズ硬化後の表面被膜

強度が高い為、サンドブラストを行った接着面に対しては、シラン処理をした接着面と同程度の接着強度があり、また、NX3にはメタルプライマー効果もある為、この2ステップの接着システムで全てのマテリアルの補綴物に対応可能である。

その為、今回のメタルセラミックスブリッジの接着においては、メタル内面に対するメタルプライマー処理は不要で、直接NX3レジンセメントの注入を行うことができた。

また、レジンセメントの最大の問題となる余剰セメントの除去であるが、NX3は非常に除去しやすく、特にマイクロスコープ下で確認した際のマージン部のクオリティは他のレジンセメントシステムより好感が持てる。

このようにXTRとNX3を併用する事で、確かな接着力への期待とステップの簡素化を行うことができ、筆者の日常臨床における接着システムの第一選択となっている。



1. XTRのアドヒーズは硬化後、強固な被膜を形成するため、接着前のファイバーコアの非着面に塗布することで、NX3のぬれをよくすると共に、より強固な接着効果を期待できる。



2. 根管内にXTR塗布後、NX3を注入しファイバーコアをセットし、光重合を行う。XTRとNX3を併用する事によりデュアルキュア型の硬化反応を起こすため、光の届かない深部でも硬化が期待できる。



3. 左上3番、5番、ファイバーコアセット後の状態。



4. メタルセラミックブリッジ接着のため、支台歯にXTRのプライマーとアドヒーズを塗布する。



5. メタルセラミックブリッジ内面にNX3を注入。NX3にはメタルプライマー効果があるため、前処理なしにそのまま注入することができる。



6. メタルセラミックブリッジセット後。 余剰セメントも除去しやすい為、非常に良好なマージン部の歯肉の状態を維持することができる。